



新型コロナウイルスに関する最新の知見などについて解説した佐藤圭創教授

最悪想定し備えを

延岡市医師会 医療、介護者に講演

新型コロナ 県内関連情報

新型コロナウイルスの国内「第3波」に備えて、延岡市医師会（佐藤信博会長）は10月29日、医療や介護施設関係者らを対象に、

感染予防のための講演会を開いた。感染症の専門家や看護師が、最新の情報や経験に基づく実践的な作業について解説した。

九州保健福祉大薬学部

佐藤圭創教授（呼吸器、感染症）はウイルスの実態や感染に関する特徴を、直近のデータを示し説明。重症化の理由として免疫の過剰反応が医療関係者に注目されていることを紹介した。

症例の蓄積により有効な治療法が分かりつつあるとする一方で「まだ未知の部分も多く、医療、介護関係者は常に最悪の事態を想定し備える必要がある」と呼び掛け。外部から施設への

感染遮断や、施設内で発生した際の隔離の考え方を示した。

医師会病院の佐藤五十鈴総看護師長は、院内での実際の取り組みを報告。動画を交えて安全、危険エリアの

区分や防護具の着脱法などを解説し、日常的な練習の重要性を訴えた。

（久保田順司）